



No. 3

2017年6月発行



図書委員 Presents

☆青陵祭応援フェア☆



今月の図書館は、『青陵祭応援フェア』を実施しています。図書委員が選んでPOPを作成した「青陵祭の参考になりそうな本」の展示や、図書委員や先生方のご協力により実現した「過去のクラスTシャツ」実物展示、青陵祭の様子が分かる動画の上映もしています♪

さらに、『クラT図鑑』等他校からお借りした本も展示中です☆（鳥取県の図書館はネットワークでつながっているため、他校の本もお借りできます！）青陵祭準備の参考に、ぜひ活用してください♪

New

新着図書リスト

タイトル	著者	出版年
えほんのせかいこどものせかい	松岡享子	1987.9
今、この本を子どもの手に	東京子ども図書館	2015.2
自分のための人生 ダイアー博士の世界的名著	ウエイン・W. ダイアー	2014.9
ハローキティの「道をひらく」	松下幸之助	2016.8
永井隆の生涯	片岡 弥吉	1990.2
行ってみたいなあんな国こんな国 1～7	東菜奈	2010.3
池上彰のみんなで考えよう18歳からの選挙 4	池上彰	2016.3
重症心身障害療育マニュアル	岡田喜篤	2015.3
くらべる時代 昭和と平成	おかべたかし	2017.3
日本列島大地まるごと大研究 4 地震の大研究	金沢敏彦	2012.3
徹底図解*脳のしくみ カラー版	新星出版社編集部	2007.3
徹底図解*からだのしくみ カラー版	水野嘉夫	2008.2
図解入門現場で役立つフライス盤の基本と実技	石田正治	2015.12
図解入門現場で役立つ旋盤加工の基本と実技	石田正治	2014.10
図解入門現場で役立つ溶接の知識と技術	野原英孝	2012.3
まるごとわかるふるさとおもしろ食べもの百科1～5	向笠千恵子	2010.3
スタイル別ブランディングデザイン	PIE BOOKS	2016.4
絵本美術館のある旅	MOE編集部	2011.6
るろうにほん熊本へ	佐藤健	2017.4
レポート	乾くるみ	2007.11
アキラとあきら	池井戸潤	2017.5
この嘘がばれないうちに	川口俊和	2017.3
新約とある魔術の禁書目録(インデックス) 18	鎌池和馬	2017.5
かがみの孤城	辻村深月	2017.5
七人のお姫さま おもいでの子話の絵本	中原淳一	2007.8
劇場	又吉直樹	2017.5
ひるなかの流星 映画ノベライズ	やまもり三香	2017.2
はたらく魔王さま! 17	和ヶ原聡司	2017.5
IS(インフィニット・ストラトス) 3	弓弦イズル	2013.5
フラダン (Sunnyside Books)	古内 一絵	2016.9
ストロベリーライフ	荻原 浩	2016.9
犬が来る病院 命に向き合う子どもたちが教えてくれたこと	大塚 敦子	2016.11
保健師・養護教諭になるには (なるにはBOOKS)		2017.5



今月の新着図書は、

又吉直樹初の恋愛小説「劇場」、池井戸潤「アキラとあきら」、辻村深月「かがみの孤城」、川口俊和「この嘘がばれないうちに」(「コーヒーが冷めないうちに」続編)等、話題作がたくさん入っています♪

お知らせ

鳥取県高校生クイズキャッチコピー大募集!!

『図書館で知る鳥取県民の日キャンペーン』『鳥取県高校生クイズ』のキャッチコピーを募集しています☆

応募用紙は図書館にありますので、素敵なキャッチコピーを考えて応募してください♪



優秀作品には図書カードが貰えます。
(最優秀作 3000円分
優秀作 2000円分
佳作 1000円分)

締め切り → 6月23日(金)
提出先 → 本校図書館

図書館で知る鳥取県民の日キャンペーン
鳥取県高校生クイズキャッチコピー募集

「図書館で鳥取県民の日や郷土を知ること」を呼びかける
キャッチコピーを作ってください

- 最優秀作品は「鳥取県高校生クイズ」のポスターに使用されます。
- 副賞として図書カードを贈呈
- 最優秀作1点 3000円分
- 優秀作2点 2000円分
- 佳作1点 1000円分
- 昨年度最優秀作品「図書館は本だらけ」(砂庄は砂だらけ)
- 応募資格 鳥取県内の学校に通っている高校生
- 応募〆切 平成29年6月23日(金)
- 応募方法 各学校図書館にある応募用紙で応募
- 主催 鳥取県立図書館

Pickup

今月のおススメ本

今月のおススメ本コーナーでは、前回スペースの関係上紹介できなかった「新しく着任された先生方おすすめ本」の《おススメコメント》を一挙紹介します。

○濱崎公嗣校長先生

『「地方創生」から「地域経営」へ』

寺谷篤志、平塚伸治

著者の寺谷さんは、智頭農林高校を卒業後、地元の郵便局に勤めながら智頭町の「まちづくり」にかかわってこられた方です。現在、大きな課題となっている地方の衰退とその打開策としての「まちづくり」に、智頭町で取り組まれた様々な手法など多くの興味深い内容となっています。

生徒の皆さんが、将来鳥取のまちを元気にしたいと思った時ぜひとも手にとっていただきたい一冊です。

(☆☆裏面に続きます☆☆)

○小川泉教頭先生

『明日への統計 2016』

総務省統計局

近年「ビッグデータ」という言葉をよく耳にしませんか？

今やデータの分析なくして物事を進めることはできません。この冊子は政府の莫大な統計調査をわかりやすくグラフや表で表したものです。毎年発行されており、各年の話題となる調査も詳しく解説されています。日本の姿をデータで見てもみませんか？

総務省のHPからも見ることができますよ。

では、この中で紹介されている「統計でみるあの時といま～東京オリンピックといま～」よりクイズです。

2020年に東京オリンピックが開催されます。前回東京でオリンピックが開催されたのは今から53年前の1964年です。そんな当時といまを比べてみました。さて次の物価のうち、1964年当時より値段が上がったものはどれでしょう？

① バナナ1kgの値段

② カメラ1台の値段

(1964年フィルムタイプ35mm・2014年デジタルカメラ)

③ テレビ1台の値段

(1964年モノクロ16型・2014年液晶32V型)

クイズの答えは
図書館で♪



○大平久美子事務長

『柳橋物語むかしも今も』

山本周五郎

前進座による講演を観る機会がありましたので、原作を読みました。

「待っているわ」のたった一言で、その後の人生でありとあらゆる災難に見まわれる主人公。生きることのさびしさ。愛することの悲しさ。それでもなおひとむきに生きようとする姿に感動しました。

一番最近に読んだ作品にしました。

○石田修一先生

『永井隆の生涯』

片岡弥吉

永井博士は、原子医学者として長崎大学で放射線の研究に専念した。結核患者の治療のため胸部検査を実施するも、フィルムが不足すれば直接透視し、多量に放射線を浴び、ついには白血病を患う。さらに、長崎への原爆投下で被爆した際には、重傷を負いながらも救命活動を続けた。自らの命を供してまでも人々を助けようとする「如己愛人」の人生は、医学・医療を目指す人だけでなく、多くの人に読んでもらいたい。

○磯江愛子先生

『七人のお姫さま』

中原淳一

子どもの頃から知っている「人魚姫」「白雪姫」「親指姫」…。お姫様が登場する7つの童話から成る豪華な絵本です。

とにかく挿絵が美しい！

私は子供の頃この本を開く度に言葉や絵の美しさに目を奪われていました。

大きくなってから読んでも大満足の絵本です。

○岸田文子先生

『辞書』

国語でも漢字でも古語でも英和でも和英でもどんな辞書でも構いません。目的もなく、ただテキストにページを開いてみて下さい。

知っているはずの言葉がこんなふうに定義されているのか、とか、こんな意味もあったのかという発見がありますし、知らない言葉を見つける楽しみもあります。

辞書は読みものです！

○佐々尾隆先生

『ハローキティの「道をひらく」』

松下幸之助

みなさんご存じのパナソニック(旧松下電器産業)グループの創業者松下幸之助さんの短編随想集を再編集したものです。

絵本のように読み、どのページを開いてもキティちゃんがかわゆいですよ。文字も文章もわかりやすく、こどもから大人まで楽しめると思います。何よりも内容が充実しています。松下さんの信念が心地よく伝わってきます。

生きることについて、迷ったとき、悩んだとき、壁にぶつかったときなどにこれを読むと元気が湧いてきます。ぜひ読んでみてください。

○澤周作先生

『光の帝国』

恩田陸

膨大な書物を暗記するちから、遠くの出来事を知るちから、、、不思議な能力を持つ「常野一族」。葛藤を抱えながらも、イキイキと生きようとする人たち。登場人物一人ひとりが輝きを放ち、愛のある、優しさに満ちた1冊です。常野の人々の生き方が自分のものとなつてつながつているかも・・・？

短編集で読みやすく、読書嫌いな人でもスラスラ読める本です。

○田中友幸先生

『リピート』

乾くるみ

一言でいうと、後味の悪い作品です。

ミステリー作品としての、どんでん返しもありがち。

驚きはなく、そうなるか… という失望感。

誰しも知らず知らずのうちに、居心地の良いものばかり

選んでしまうもの。

あえて、その逆を選択してみませんか？

○西尾美由紀

『女性の品格』

坂東眞理子

筆者はあとがきに、「多くの女性、特にこれから仕事をし、社会で生きていく女性たちの参考になれば幸いです。」と書き記しています。

“品格”という言葉は、今はあまり耳慣れないかもしれませんが、2020年の東京オリンピックで“おもてなし”が日本人の美徳と注目されるように、“品格”も昔から日本人の生き方として大切にされていることです。

「約束をきちんと守る」「型どおりの挨拶ができる」等々、短い文章で読みやすい本です。300万部を超えるベストセラーを、ぜひ手に取ってみてください。

○藤原美紀先生

『世界がもし100人の村だったら』

池田香代子

世界の人口を100人の村に例えて、色々な視点から見た本です。

例えば、「字を読み書きできる人は86人、残念ながら読み書きできない人は14人います。」等、簡単にわかりやすく書いてあります。読んでいくと自分がどれだけ恵まれた環境の中で生活しているか幸福かを気づかされる本だと思います。

○升田裕子先生

『楽園のカンヴァス』

原田マハ

『暗幕のゲルニカ』

原田マハ

絵画や美術作品に興味なかった私。

この2冊に出会ってから、美術館に行ったり、美術書を見たり。

今まで知らなかった世界があります。

○松尾佳美(司書)

『リバース』

湊かなえ

「これで終わるのかー…！」という、この上ない後味の悪さ。

さすが「イヤミス」(=読んでイヤ～な気持ちになるミステリー)の女王湊かなえ。

現在ドラマ化されているのをきっかけに読んでみたのですが、後味は悪いくせに面白い！

小説によっては面白くなるまでに時間がかかったり、なかなか読むのが進まない作品もあつたりしますが、湊さんの作品は最初から読みやすく、一気にどんどん読めます。

(というか、続きが気になって気になって途中でやめられない…)

そして、最後の最後に「そう来ちゃったのねー…」と衝撃を受けつつ、タイトルの『リバース』の意味も実感。最後の一文にやられました。

ドラマも面白いけど、原作もおススメです♪

○三村雅人先生

『自分のための人生』

ウェイン・W・ダイアー

前向きな考え方、自分らしさとは何かを考えさせてくれる一冊です。

自分がやりたい事は何か、何を選択し、どう行動するべきか、わからなくなつた時、アドバイスをもらえると嬉しいです。

将来を考える全ての方におすすしめします。